

「翼に夢を乗せて 次の100 年へ ムービー」とともに、千歳市空港開港100 年記念オリジナルソング「空へ」を演奏しました。



この日から千歳市観光大使に就任したヤマザキマリさんと鳥山雄司さんが、「支笏湖イルミナヒストリア」の曲を披露してくれました。
※観光大使就任の模様は、広報ちとせ 12 月号に掲載予定です。



「空港とともに歩むまち」宣言

千歳市は、空港の発展とともに成長を遂げてきました。その原点は、1926 年 10 月 22 日、飛行機を間近で見たいと集まった当時の千歳村の人々が勤労奉仕により無償の汗を流し、原野に一本の着陸場を造成して、小樽新聞社所有の「北海」第 1 号が降り立ったことに始まります。

先人たちが未来への夢を託した一本の着陸場は、現在の航空自衛隊千歳基地、そして北海道の空の玄関口である新千歳空港へと受け継がれ、大いなる発展を遂げてきました。

本日、空港開港 100 年という記念すべき節目を契機に、私たちはその歩みを深く胸に刻み、先人の偉業を地域の誇りとして称えるとともに、困難に一致協力して立ち向かう「スピリット・オブ・チトセ」の精神を次世代へと継承します。



村民による着陸場造成と１番機「北海」第１号の着陸について、講話をいただきました。



第２部のオープニングにて、名曲「虹」を合唱しました。



「北海」第１号のパイロットとして千歳の地に降り立った酒井憲次郎操縦士のご親族が、ビデオレターで出演。

DATE
2026/10/22

SCENE
千歳市空港開港100 年
記念式典

千歳の地に初めて飛行機が降り立ってから、この日でちょうど100 年。北ガス文化ホールにて、節目をお祝いする式典が盛大に開催され、1,200 人以上が参加しました。



記念講演

俳優・タレント

風間俊介 さん

芸能界きっての航空マニアとして知られる風間さんが、新千歳空港の魅力を語ってくれました。

――新千歳空港には、どんな印象を持っていますか。

この式典に出席させていただいているから言うのではなく、一番魅力がある空港は、間違いなく新千歳空港です。世界の中でもトップランクだと思います。北海道の魅力が全て新千歳空港に集まっていると言っても過言ではないし、お魚を食べたりお肉を食べたり、「胃袋が何個もあったらいいのに」と思わせてくれる空港です。温泉もあって映画館もあって、こんな魅力的な空港はほかにありません。新千歳空港に行く時は、いつもワクワクしています。

――100年前の千歳村の人々は、「飛行機を見たい」との思いから飛行機の着陸場をつくりました。このエピソードについてどう思いますか。

先人の皆さんがいたからこそ、僕自身も北海道を楽しめたり、新千歳空港に降り立っていろんなグルメが楽しめます。この方たちがいなかったら、北海道と各地は空でつながることはなかったと思うと本当に感銘を受けますし、感謝しています。それと同時に、「飛行機を見たい」との純粋な願いが、やっぱり素敵だなと思いますね。僕も北海道に魅了され続けている一人なので、この魅力を発信し続けることで、次の100年を迎えるときに「こんなに北海道に魅了された人がいたんだよ」と歴史の一部になれたらと思っています。

――「北海」第1号着陸の日、人口5千人ほどの千歳村に約1万人が駆けつけたそうです。

交通手段が整っていない当時にそれほどの人が集まったのは、自分たちを未来に連れて行ってくれる飛行機に憧れて、そして希望を託して集まったんじゃないでしょうか。そう思うと、胸が熱くなりますね。

――今年の9月には市民パレードが開催され、この千歳市で東京ディズニーリゾートによるスペシャルパレードも行われました。

僕はディズニーが大好きなので本当に羨ましいですね。ウォルト・ディズニー・カンパニー（WDC）も少し前に創立100周年を迎えましたが、100年続くものって、需要だけじゃなく夢と志がないと絶対に続かないと思うんです。千歳市の皆さんが夢を持って、志を持ち続けてきてくれたからこそこの100年があるのだと思います。WDCとの2つの100年が合わさった、すごく特別なパレードですよね。

――空港開港100年という大きな節目を迎えた千歳市民の皆さん、そして次の100年を担う子どもたちへのメッセージをお願いします。

本日は本当に、空港開港100年おめでとうございます。100年を迎えられたのは、人々がバトンをつないでくれたからだと思います。開港100年のバトンを皆さんが受け取り、同じく僕も空港を愛している者としてバトンを受け取ったつもりでいます。100年後の未来の空港がどんな空港になるのか、ものすごく楽しみですし、その時の人たちが「100年を迎えた人たちがつないでくれたんだな」と思えるような、そんな未来になったらいいなと願っています。僕も空港を愛している者として、微力ではありますが魅力を伝え続けていきたいです。